

本号の主要記事

- 第73回全国大会(愛知大会)概要
- 全国大会会場
- 事務職員研修会報告
- 編集後記

2021

協会ニュース増刊号

AICHI



“Heart” of JAPAN
~Technology & Tradition

令和3年3月26日発行
全国公立高等学校事務職員協会
事務局:群馬県立太田フレックス高等学校
電話:0276-31-8047
住所:群馬県太田市下田島町1243-1

第 73 回全国公立高等学校 事務職員研究大会 (愛知大会)



1 期日・会場

- | | |
|-----------|-------------------|
| (1) 全国理事会 | 令和3年8月2日(月) |
| (2) 研究大会 | 令和3年8月3日(火)～4日(水) |
| ・全体会 | ウインクあいち(名古屋市) |
| ・第1分科会 | ウインクあいち(名古屋市) |
| ・第2分科会 | ウインクあいち(名古屋市) |
| ・第3分科会 | ウインクあいち(名古屋市) |

2 日程

ただいま作成中
詳細は募集要項でご確認ください。

みなさんご存じのとおり、新型コロナウイルスの影響により、令和2年7月30日・31日に予定されていましたが第73回全国公立高等学校事務職員研究大会愛知大会は、令和3年8月に延期となりました。

今年度の開催を目指して、全国協会と愛知県実行委員会で準備を進めてまいりましたが、延期が決まり、非常に残念な気持ちになりました。延期を受けて、まずは関係各所への延期の連絡・調整、キャンセル料の有無から始まり、来年度の開催に向けて、新型コロナウイルス対策も含めて、準備を進めてまいりました。密を避けるため、実行委員会は大人数で集まることができず、やむを得ず少人数で進めてまいりました。試験的にリモート会議も導入しました。今では、リモート会議にも少しずつ慣れて、全国協会との打合せもリモートで行っている状況です。

さて、来年度の全国大会ですが、リモートで参加する・ライブ配信を視聴する、といった形式で開催することが可能なのか、実行委員会と全国協会とで検討チームを作り、検討会を行ってきました。結果として、会場を小さく、コンパクトにして、例年どおり全国から参加者を募って開催する、参集型とすることに決めました。今の段階では、開催要項等が確定していませんので、確定したところで、開催通知を发出したいと思っておりますので、もうしばらくお待ちください。

世の中の状況が刻々と変わるので、これを読まれた時には、また状況が変わっているかもしれません。ただ、今は、みなさんに参加して良かったと思われるような大会を目指して準備を進めております。安全・安心を一番に考えて様々な検討をしておりますので、みなさんのご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

話は変わりますが、令和3年1月6日に行われました、全国協会事務職員研修会の模擬リモート研修の際に、全国大会をPRする時間をいただきました。その時に使用した原稿が下記のものになります。よかったですらご一読ください。(少々修正を加えてあります。取り消し線部分は、この後に検討会が開かれ、変更が決まった部分です。日程は、8月3日・4日で、会場は、愛知県名古屋市の「ウインクあいち」となります。)

■参加者のみなさん、初めまして。

第73回全国公立高等学校事務職員研究大会愛知大会の実行委員長を務めます、愛知県立春日井西高等学校の日比野でございます。

今回、事務職員研修会模擬リモート研修に、全国のみなさんが参加されるということで、愛知大会のPRのためにお時間をいただきました。ありがとうございます。



■さて、本来でしたら、この時期は、大会が無事に終わって、次期開催県への引継ぎも終わって、今年度の大会は、名古屋だったから暑かったよね、などと言っているところなのですが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、大会は中止、延期となり来年度、改めて愛知県で開催されることになりました。全国協会の歴史上、このようなことは、初めてのことで、全国協会役員の方々を始め、全国の会員の方々には、ご心配をおかけしました。

■私たち実行委員会としましても、今年度の開催に向けて準備を進めてまいりましたので中止・延期が決定された時には、非常に残念な気持ちとなりました。また、来年度は本当に開催できるのか、開催したとしても、参加者は集まるのか、そんな不安な気持ちは、今でも完全に拭い去ることができません。しかし、引き続き愛知県での開催を引き受けた以上は、責任をもって、準備・運営する気持ちでおります。今の状況では、大人数で集まっての実行委員会は、開催することができませんが、リモート会議を取り入れるなど、少人数で集まって、徐々に準備を進めており、来年度は、全国協会役員の方々とも協力して新しい生活様式を取り入れた全国大会を開催し、みなさんに参加していただけるよう準備を進めております。

■大会は、令和3年8月4日、5日に開催し、会場は、今年度と同じ名古屋国際会議場を予定しております。会場の変更はありませんが、いかに感染症対策をとっていくか、そこが最大のポイントだと思っております。

そこで、参加されるみなさんには、感染症対策についてご理解をいただき、ご協力をお願いすることとなります。ご不便・ご面倒をおかけする部分が多々あるかと思いますが、参加されるみなさんの安心・安全を第一に考えた大会運営をしてまいりますので、どうかよろしくお願いします。具体的な対策としましては、メイン会場の名古屋国際会議場 センチュリーホールは、通常の定員が約3000人で、コロナ対策をとった場合の定員は、半分の1500人になります。当初の予定参加者が900人ですので、その場合でも、十分ソーシャルディスタンスを確保しながら配席することができます。このとおり会場にはかなりの余裕がありますので、より多くの方のご参加をお願いしたいと思います。

■愛知大会のキャッチフレーズは、『“Heart“ of JAPAN』としました。これは観光プロジェクトのキャッチフレーズを使用させていただいています。このコンセプトは「体のすみずみに血を巡らせ、いのちを輝かせる心臓のように、愛知・名古屋も日本、世界、そして未来に、新しい活力、新しい感動を起こす原動力でありたい。そしてハートのマークが表すように、思いを込め、おもてなしの気持ちを表現したもの」ということです。このキャッチフレーズを前面に、実行委員は、大会に参加される方々におもてなしの気持ちを持ってお迎えしたいと思っております。また、大会は、全国から集まる参加者相互の情報交換や交流を深められる良い機会でもあります。愛知県は日本の中心部にあります。全国のいろいろなところからの参加をよろしくお願いします。

■大会に参加する意義は、単に研修だけではないと思っています。その土地の雰囲気味わう、歴史に触れる、食を楽しむ、こういったことも全国大会ならではのことだと思っています。その点愛知県は、三英傑の生誕の地であり、県内各地に、その歴史に触れられる場所がいくつもあります。また、「なごやめし」と言われるほど、愛知県に来ていただくことで味わえる、多くの食の文化もあります。ぜひとも大会に参加して、愛知県を堪能していただけるとありがたいです。

■再度、緊急事態宣言が首都圏に発令されるかもしれない状況で、今後どうなるか全く予想できません。私たちは、新型コロナウイルスが終息することを信じていますが、そうならなくても感染症対策を万全にしてお迎えしたいと思いますので、ぜひとも多くの方々の参加をお願いいたします。実行委員、愛知県事務職員一同、みなさんの参加を心よりお待ちしております。

■貴重なお時間をいただき、ありがとうございました。

第1分科会 学校組織マネジメント ―学校経営への参画―

<午前の部>

○ 研究発表

(1) 文書の編集・保存・廃棄について ～“片づけ”を意識し行う文書管理のススメ～

北海道室蘭工業高等学校 事務職員 諸星 明子
北海道蘭越高等学校 事務長 岩崎 洋和

この10年、教育行政の改革やICTの発達で学校事務室を取り巻く環境は大きく変わりました。しかし、紙文書の編集(ファイリング)・保存・廃棄は今も昔も学校事務の基本業務であり、文書の「片付け」とも言えます。

本研究では2冊の書籍を参考に理想的な文書の片付けを追求し、また片付けの意義を探究しました。各校が文書の処理・検索・保管場所などで日常困ることが無いように、という思いで取り組んだ研究です。

(2) 「クローズアップ旅費」 ～より良い研修を目指して～

長崎県立佐世保中央高等学校 主任 米澤 潤二
長崎県立佐世保工業高等学校 主事 北田 智美

「旅費事務」は、会計やサービスといった事務処理の基本がわかり、初めて担当する者でも比較的取り組みやすいものとして、初任者に任されることが多い事務です。しかし実際には、マニュアルどおりに処理できないケースや先生方からの問い合わせなど、初任者にとっては対応が難しい場面も多く発生します。そのような「旅費事務」について、トラブルになりがちなテーマを具体的に2例挙げ、寸劇仕立てで発表を行います。研修は楽しくをモットーに、使用するビデオ制作にあたっては、研究を主管する学校の放送部の生徒に協力を得るなど工夫を凝らし、事務職員同士のつながりと絆を大切に笑顔がいっぱいの研究発表としています。

コロナ禍の中、当たり前だった顔を合わせての研修会が難しくなり、より一層つながりと絆の大切さを知ることとなりました。

感染防止対策のため十分な打ち合わせもできていませんが、難局を乗り越える若い事務職員の姿に、何かを感じ取っていただければ幸いです。

(3) 学校事務職員とAI ～AIと共存していく学校事務職員とは～

群馬県立桐生高等学校 主任 大澤 崇人
群馬県立新田暁高等学校 主事 小田切 航
群馬県立太田東高等学校 主事 木田 和弥

AIやRPAによって学校事務職員の仕事が奪われるのではないかと、といった不安の声をよく聞きます。しかし、AIやRPAと言っても本質はアルゴリズムであり、学校事務の全ての業務が代替されるわけではないだろうが、一部業務では代替可能性も高いはずです。AIにできること・できないことを知り、これからの時代の学校事務職員の在り方や心構え、どのように学校運営に携わるべきなのか、AIと共存していくために必要なことを考察しました。

第1分科会

<午後の部>

I 基調講演

仮題 「ポストコロナ時代に応じた多様な学びの実現に向けて」
～コロナ禍で見た学校の存在意義～

講師 愛知教育大学准教授 風岡 治 氏

II パネルディスカッション

仮題 「新たな危機管理の在り方とこれからの学校づくり」
～ポストコロナ時代に求められる事務職員の役割～

パネリスト ①上記基調講演の講師
②NECソリューションイノベータ(株)東海支社 深谷 洋 氏
③愛知県公立学校事務職員(事務長)

○ 問題提起

百年に一度の公衆衛生危機と言われている新型コロナウイルス感染症は、現在も収束の目途は立っていない。今後も長期にわたり広く影響を及ぼすであろう。

学校も例外ではなく、突然の休校要請等、予期しない事態に困惑と混乱が広がった。今もなお、感染症対策と学習保障の両立に苦心しているところである。

「危機管理」の面から見ると、事故・不審者侵入への対応や地震・気象災害への対応に着目しがちだが、今後は感染症への対策にも目を向けていかなければいけない。

また、Society5.0時代の到来に向けて社会が劇的に変わろうとしている中、令和元年5月に教育再生実行会議による「技術の進展に応じた教育の革新」「新時代に対応した高校改革」を柱とする第11次提言を受け、高等学校教育も大きく改革されようとしており、令和2年10月に出された「中央教育審議会中間まとめ」において、新しい時代の学校教育を実現するための方向性が示されている。中でも「遠隔・オンライン教育を含むICTを活用した学びの在り方について」はポストコロナ時代の新たな教育の展開として注目すべき方策の一つであるといえる。

本分科会では、学校教育をめぐる社会の現状と課題について知見を広め、コロナ禍における学校運営の検証を行い、今後の危機管理の在り方及びICTの活用を軸とした新たな教育の展開について討議する。また、ポストコロナ時代の学校における事務職員の役割とそれを果たすために必要なスキルや心構えについて討議する。

○ 討議の3本柱

- 1 コロナ禍における学校の危機管理対応についての検証と今後の在り方
- 2 ICTの活用を軸とした新たな教育の展開に向けた事務職員の役割
- 3 ポストコロナ時代の学校運営において求められる事務職員としての姿勢

第2分科会 業務の改善と効率化 —実践と提案—

<午前の部>

○ 研究発表

(1)コバトンに叱られる ～学校の不用品マネジメント～

埼玉県立狭山緑陽高等学校	主事	金井 雅博
埼玉県立入間わかくさ高等特別支援学校	主事	平野 郁馬
埼玉県立新座総合技術高等学校	主事	前田 拓之

環境マネジメント・3R(リデュース、リユース、リサイクル)・産業廃棄物の3つを中心とした環境に良いことについての研究発表です。

環境マネジメントでは、埼玉県や県立学校で実際に行っている目標、達成手段を紹介し、また3Rでは、学校で実際に行ったリユース・リサイクルの実験・検証・改善をはじめ、埼玉県全体で取り組んでいるリユース・リサイクルの紹介や改善の提案を行います。

さらに産業廃棄物の処分については、採用2年目とベテラン主任による、学校にあるあるの粗大ごみについて、適切に処理していく様子を会話形式でご覧いただきます。

(2)「事務職員協会による学校の事務改善の取り組みについて」(仮題)

奈良県立奈良北高等学校 係長 久保 英樹

奈良県では、他の多くの都道府県と同様に学校事務職としての採用区分がなく、知事部局に採用された行政職員が知事部局と教育委員会との間を異動するため、個々の学校事務職員は自分の業務に対する熱意はありますが、学校事務全体を充実・改善しようという意欲に乏しいように感じられています。そのような現状から、奈良県事務職員協会が主導して学校事務全体の事務改善について、各種の方策を検討していきます。

これらは現段階における研究発表内容の趣意ですが、実際の発表に向けて、現在さまざまな検討を行っているところです。

(3)「晴れの国おかやま」を襲った豪雨災害 ～事務職員の視点から学んだこと～

岡山県立総社高等学校 主幹 石川 学

近年において、全国各地で豪雨災害が発生しておりますが、岡山県でも、平成30年7月豪雨により各所で甚大な被害を受けました。

県立学校においても例外ではなく、中でも河川の氾濫により水没し、著しい被害を受けた倉敷まきび支援学校の復旧への取組について、「事務職員としてやるべきことは何か」を考える一助になればと思い、活動内容について整理、記録したものを発表します。

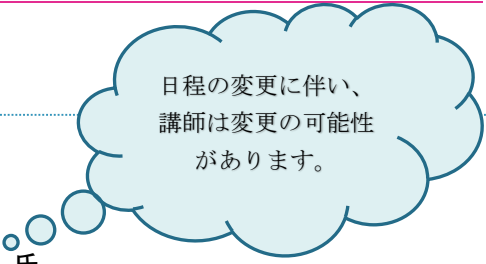
第2分科会

<午後の部>

I 基調講演

仮題 「“非”常識が仕事を変える？」
～ 意識が変われば仕事も変わる！ ～

講師 (株)ワーク・ライフバランス代表 小室 淑恵 氏



日程の変更に伴い、
講師は変更の可能性
があります。

II パネルディスカッション

仮題 「“カエル会議”で、人と仕事が見えてくる」
～ 意識をカエルと、仕事も生活も変わり出す ～

パネリスト ①(株)ワーク・ライフバランス代表 小室 淑恵 氏
②ワーク・ライフバランスの実現事例に精通した方
③学校事務職員で働き方改革に取り組んでいる方

○ 問題提起

民間企業で導入が進む働き方改革。学校における改革についても少しずつ実践が浸透しつつある。中央教育審議会は、平成31年1月の答申において、教職員の多忙化を解消するために、学校事務職員を含めた外部人材の活用を中心とした方策を打ち出した。

しかし、学校における働き方改革の根幹は、将来を担う子どもたちの健全な育成である。少子高齢化や大介護時代を乗り切るためには、自ら課題を見出し、問題を解決しうる人材の育成が急務であり、これまでの学校教育では対応が難しい現状である。その大きな原因は、長時間労働による大量生産時代に必要とされる画一的な人材が求められたこれまでの社会構造、また、残業やプライベートの犠牲が当たり前の考え方の遺物であって、その視点を欠いた働き方改革では根本的な解決には至らない。行事の精選や仕事の見直しなどにより、教員の残業時間を自身の自己研鑽やリフレッシュの時間に充てることで、生徒や保護者に向き合う自信と余裕を獲得することが、学校全体のワーク・ライフバランスにつながり、その実現こそが求められている。

そこで、他業種の働き方改革の成功例を踏まえながら、これからの人材を育成する学校を目指した働き方改革の重要性について、認識を共有するとともに、ワーク・ライフバランスを実現するため、学校のビジョンを明確にし、そのビジョンの実現に向けて、私たち学校事務職員が実践できる方策や具体的手法について明確にしていく必要がある。

本分科会では、学校事務職員が、会議の手法を活用しながら、自ら時間や業務の効率化を検証し、お互いがそれを共有し、職員同士の意思疎通を活性化させる働き方を実践することで、ワーク・ライフバランスの実現を目指すとともに、さらに学校全体の働き方改革をなすための、その具体的な取り組み事例について情報を共有し、改革の意識を高め、実践につながるきっかけを見出していく。

○ 討議の3本柱

- 1 学校におけるワーク・ライフバランスの必要性和効果
- 2 会議の手法で仕事が見える化し、業務の効率化を図る具体的方策
- 3 既成の常識にとらわれない、学校事務職員の実践

<午前の部>

○ 研究発表

(1)「初任者層研修会の講師を取り巻く環境の改善」

宮城県古川黎明高等学校	主事	土井 学
宮城県石巻北高等学校	主査	佐々木 慎吾
宮城県小牛田農林高等学校	主事	藤倉 司

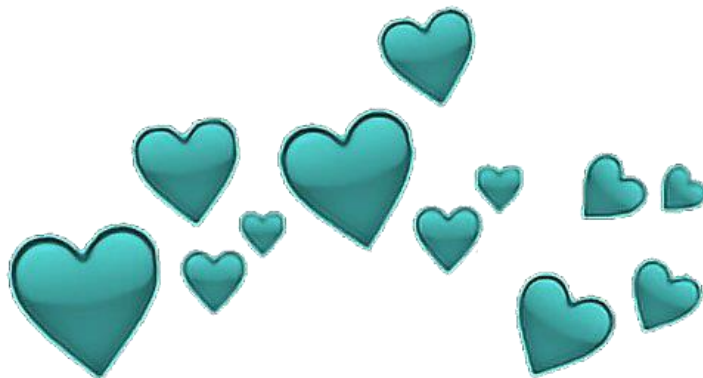
初任者層研修会の講師において、選ばれた研修幹事(若手)が担当することが多いため、講師を担当する不安や講師に対するフォローアップ体制の未整備等、講師を取り巻く環境に問題がありました。その課題を改善するために改善目標を設定し、改善策として提案した学習指導案を参考として進行案を作成し、研修運営に導入しました。これらの実践を通して問題改善を行ったその2年間の取組みについて発表します。

(2)県立学校避難所対応マニュアル作成の手引き ～大規模災害に備えて～

富山県立高志支援学校	係長	川向 裕子
富山県立雄峰高等学校	主任	宮本 真紀

大規模災害発生時には、避難所に指定されている学校だけでなく、指定されていない学校においても、災害規模や被害状況によって避難所になることは過去の事例から見ても明らかです。

学校が避難所になった場合の教職員による避難所運営対応に備えて、すぐに活用できるよう、災害発生直後の初動体制から避難所開設までに重点をおいた「学校避難所対応マニュアル」を整備するための“手引き書”を作成しました。



第3分科会

I 基調講演

演 題 「大人の発達障害について」

～ 職場内における理解とコミュニケーションスキル ～

講 師 名古屋市発達障害者支援センター「りんくす名古屋」の職員

<午後の部>

II グループワーク

テーマ 「人材を活かす職場環境と組織力の構築」

～ 障がいの特性を理解したより良い職場環境づくり ～

指導者 名古屋市発達障害者支援センター「りんくす名古屋」の職員

○ 問題提起

2018年に公表された厚生労働省調査によると、発達障害と医師に診断された人は推定48万1千人。診断を受けていない人を含めるとその10倍以上いるといわれている。中でも最近では、大人の発達障害という言葉が耳にすることが増えた。先天性の脳障害であるが、程度が軽度だったため、社会に出てからコミュニケーションが上手くとれないためにメンタル不調になり、病院で診察を受けたところ、発達障害が判明することもあるという。発達障害という言葉は最近メディアでも取り上げられる機会が増えているが、正しく理解されているだろうか。単純に性格だからと判断するのではなく、組織として、また事務室の一員として発達障害を理解し、発達障害との関わり方で悩んでいる個人や職場が、職場改善の必要性などについて考えることは重要であり、限られた時間や資源の中で、人材力・組織力を育成し、最大限に発揮していくために必要と考える。

また、2018年4月からの精神障害者雇用義務化に伴い、発達障害や働きづらさを抱える職員との協働の機会は、より一層増える可能性は高くなる。

そこで、本分科会では、「大人の発達障害」にスポットを当て、現状と課題・対応を探る。大人の発達障害とは？といった広義から、統計値でも増加が確認されている、私たち学校事務職員にフォーカスした原因・対応などを、相談事例を踏まえた専門家の講義を通じ学ぶ。また、参加者によるグループワークを通し意見交換や質疑応答を行う中で、個人が抱えている悩みと組織が抱えている悩みは何か？問題の洗い出し、うつなどの発症予防や、軽減するための職場環境改善につながるヒントやきっかけを得る機会にしたい。さらには、同じ職場内において発達障害を持つ職員がいる場合のケーススタディーを取り入れ、関わり方など実践的なスキル習得を目指す。

発達障害に対する一般論ではなく、個人及び組織としての理解と協働のための職場づくりを意識し、現場や個人で取り組める具体的な方法と行動について学ぶ。

○ 討議の3本柱

- 1 大人の発達障害に関する知識習得と対応方法
- 2 個人及び組織としての理解と職場改善の必要性
- 3 職場環境改善と相互理解に向けた具体的、実践的スキルの習得

たくさんのご参加、お待ちしております。

第3分科会

基調講演

演題 「大人の発達障害について」

～職場内における理解とコミュニケーションスキル～

グループワーク

テーマ 「人材を活かす職場環境と組織力の構築」

～障害の特性を理解したより良い職場環境づくり～

愛知大会第3分科会では、「大人の発達障害」についてグループワークを行います。

発達障害は脳機能の発達が関係する生まれつきの障害です。

コミュニケーションや対人関係を築くことが苦手な方もおり、「自分勝手」「変わった人」「困った人」と誤解され、敬遠されることも少なくありません。「障害のある方といっしょに働くのはむずかしい」「特別なことをしなくてはならない」と思っている方もいるかもしれません。

でも、障害の有無にかかわらず、誰にでも弱みや強みがあるように、それをどうカバーするのか、また伸ばすのか、組織として、また事務室の一員として発達障害を理解し、発達障害との関わり方で悩んでいる個人や職場が、職場改善の必要性などについて考えることは、とても大切なことです。そこで、専門家の講義とグループワークを通して、発達障害に対する一般論ではなく、個人及び組織としての理解と協働のための職場づくりを意識した、現場や個人で取り組める具体的な方法と行動について学びませんか。

多くの仲間とたくさん意見を交換することで、建設的な話し合いの場をめざします。是非、多くの方のご参加をお待ちしております。

令和2年度 事務職員研修会

「職場を活性化する人材育成」

～チームの能力を引き出す

コミュニケーションスキルを学ぼう～

講師 (株)教育総合コンサルティング

前田京子 氏

令和3年1月20日(水)に事務職員研修会が全国協会初の試みとしてZOOMを活用したリモート研修で行われた。各協会から推薦された75名の参加者は、講師から3部構成の講義を受講した後、事前アンケートからの質疑を一つひとつ丁寧に指導助言していただいた。



◇講義1

コミュニケーションスキルを学ぶ前に部下育成と部下指導の違いを知る

I コミュニケーションスキルを学ぶ前に

コーチングとは何か？

II 相手自ら対応能力を発揮するコーチング法

信頼関係に基づくエンパワーメントという基本姿勢が大切である。

・指示的指導(部下指導)と支援的指導(部下育成)の違い

仕事を効率的に進めるうえで「指示(こうすればよい)」を出しがちだが、部下を育成(・)するためには「支援的指導(どうすればできると思う?)」が必要である。

III 世代間ギャップを埋めるために大切なこと

「価値観が違って当然」という前提を持ち、「各世代の人生の背景」を知り、今の「相手の状況・心理」を汲むことが大切である。

◇講義2

人を育てるコミュニケーション 傾聴とは

I メンタルブロックをはずす方法

話し手の防衛本能を緩め信頼関係を築くこと。

II 人や物事を一緒にいるという感覚

クリアリングの効果

III 受け止めるということ

即否定パターンと受け止めるパターン

IV 思考の理解とは？

会話からその人の考え(背景)を聴く

◇講義3

人を育てるコミュニケーション

I 質問とは

- ・話し手の情報を収集し、共有化する。
- ・話し手の思考や感情を言語化し、明確化する。
- ・深く考えさせる。(考える力をつける)
- ・話し手の視点をひろげる。

II 効果的な質問と効果的でない質問

質問の仕方によって、相手の考え方・方向性が変わる

III 共感育成とは

相手の存在を認め、その人の成長や成果を言葉にして認める(承認)することで、モチベーションアップへつなげる。

◇質疑応答

職場の対人関係、世代間ギャップ等のアンケートに関して、事前に寄せられた沢山の疑問や悩みについて、一つひとつ丁寧に説明していただいた。時間の都合で後半は駆け足となったが、身振り手振りを交えた熱意のある回答だった。

前田講師のお話の中で、「職場には愛を」「私たちは～していきましょうという会話を中心においてください。」「私たちはという意識と言葉は職場を創ります。」というフレーズが印象的だった。

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、従来の「集合型研修」から「リモート研修」を実施することとなり、事前接続テストを延べ9回、デモ配信を含むリハーサルを3回実施して、何とか開催することかできた。手探りのリモート研修ではあったが、全国の会員とつながる新しい研修方式として、これからの研修を展望していきたい。

令和2年度事務職員研修会参加者アンケート結果

「職場を活性化する人材育成」

～チームの能力を引き出す

コミュニケーションスキルを学ぼう～

講師 (株)教育総合コンサルティング所属

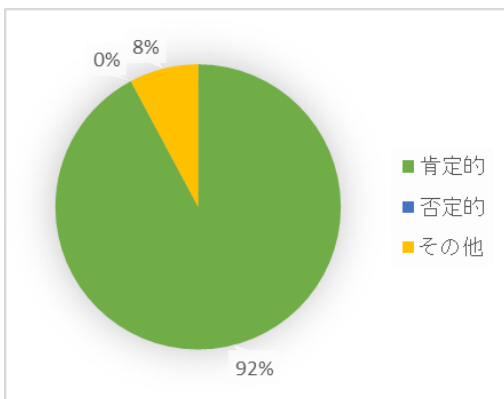
前田京子 氏

1 回答率

98.4% (回答者63名 / 参加者64名)

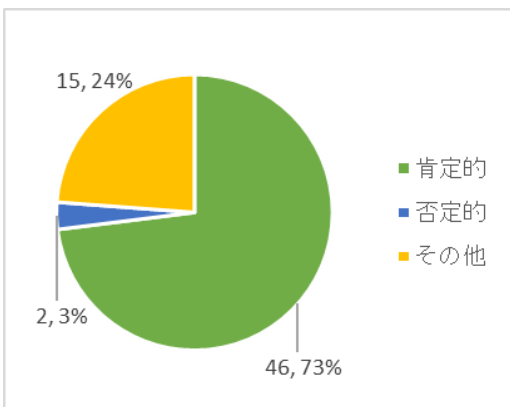
2 回答内容

<問1> 今回の研修の題材・内容についての感想



	件数	内容
肯定的	59	タイムリー・有意義であった
否定的	0	
その他	5	未回答 4

<問2> 講演「職場を活性化する人材育成」についての感想



	件数	内容
肯定的	46	
否定的	2	ペアワークがイメージしづらかった
その他	15	時間が短かった もう少し学校に踏み込んだ内容が欲しかった

<問3> リモートによる研修についての感想

【良かった点】

- ・時間的拘束が少なくよかった
- ・旅費の節約、費用対効果あり
- ・模擬リモートもありスムーズに接続できた
- ・基礎的な内容を学ぶには有効
- ・ZOOM利用の練習になった
- ・30分毎で気軽に参加できた・他県の受講者の様子がみられて、人とのつながりを感じることができた

【残念だった点】

- ・機器操作の雑音が気になった
- ・30分毎の退室が面倒、慌ただしかった
- ・自分が写っているのが気になった
- ・参加者名の変更等機器操作に手間取った
- ・使用機器の環境に左右される
- ・内容的にペアワーク等は対面が向いている
- ・一方向では受け身の研修になりがちであった

<問4> 次回以降取り上げてほしいテーマ

(複数回答あり)

- ・コミュニケーション・話し方、伝え方 13
- ・在宅勤務、リモートワーク 9
- ・ICT 関連、GIGA スクール 7
- ・事務処理効率化 7
- ・人材育成 5
- ・学校事務の歴史・役割・展望 4
- ・感染症対策 3 ・災害時対応 3
- ・クレーム対応 2 ・メンタルヘルス 2
- ・モチベーション 2 ・教員との関係 2
- ・働き方改革 2 ・若手職員向け 2

<問5> その他全国協会への要望等

- ・今後もグループワークや意見交換ができる機会を設けてほしい
- ・集合型とリモート研修を併用してほしい
- ・各会員と全国協会がダイレクトにつながれるようになる

本部活動報告

○事務職員研修会関係

- 12/25 茨城県立水海道第二高等学校
常任理事によるリモート練習
- 1/6 茨城県立水海道第二高等学校
研修会デモ配信
- 1/20 クリアビューホテル(千葉県野田市)を拠点に
事務職員研修会(リモート開催)

○常任理事会

- 1/26 クリアビューホテル(千葉県野田市)
リモートと参集により実施
全国大会について
- 2/22 リモート会議
全国大会について

お知らせ

全国大会の通知の発出が例年より遅れています。今しばらくお待ちください。

編集後記

桜の花も満開となり、花粉症は依然ピークが続いています。全国大会も、オリンピックの開催もどんな形になるのか、日々変わるコロナ情勢に全容がまだ誰にもわからない…。表紙の“Heart” of JAPAN は愛知県観光コンベンションの公式ロゴマークの AICHI バージョンです。日本のど真ん中に位置する愛知県。第3分科会もハートがいっぱい。心温まる大会を実現したいものです。

さて、私たち学校事務職員は、3月はずっとほしいと思う繁忙期です。コロナも怖いけど、過労だって死に至る怖いものです。体調管理も仕事のうち。「健やかに楽しく」をモットーに今を乗り切りましょう。

今回の協会ニュースは、いよいよ全国大会直前号です。総会資料等も掲載予定です。 (宇佐美)

○全国協会 HP アドレス

<https://zenjikyoo.jimdo.com>

○「協会ニュース」についてのお問い合わせ

ご連絡は次の広報部編集担当まで

・茨城県立取手第一高等学校／宇佐美

電話 0297-72-1348

FAX 0297-73-7814

Mail usami.fukumi@post.ibk.ed.jp

・茨城県立水海道第二高等学校／柴崎

電話 0297-22-1330

FAX 0297-22-5489

Mail sibasaki.seiji@post.ibk.ed.jp



